

告示研修後のタスクシフト・シェア

-診療放射線技師によるルート確保を目指して-

○平野 尚¹⁾, 岸本 幸治¹⁾, 西本 勇喜¹⁾, 長生 健太¹⁾, 桐山 哲一¹⁾, 磯 昌弘²⁾

¹⁾市立宇和島病院、²⁾桐生厚生総合病院

【はじめに】

現在市立宇和島病院では技師法改正に伴い診療放射線技師による静脈確保を目指して準備中である。今回、我々が行っている静脈路確保の経過報告と今後の目標を紹介する。

【背景】

診療線技師法施行規則等の一部改正(2021/10/1)が施行され、それに伴い告示研修を受けることによってできる行為 6 項目¹⁾が追加された。

業務拡大領域(6項目)

- ・静脈路を確保(CT検査・MR検査・RI検査)
- ・RI検査の医薬品の注入(核医学検査)
- ・動脈路に造影剤注入装置を接続(血管撮影・IVR)
- ・下部消化管造影剤及び空気を吸引(大腸の検査)
- ・上部消化管鼻腔カテーテルから造影剤注入(胃の検査)
- ・病院・診療所の超音波検査



また当院では危機的な看護師不足のため 2 月に病棟編成が行われ、ベッド数が減らされた。それに伴い看護部より看護業務を低減するために何かできないかとの要請もあり今回静脈路確保の検討・準備をした。

【目的】

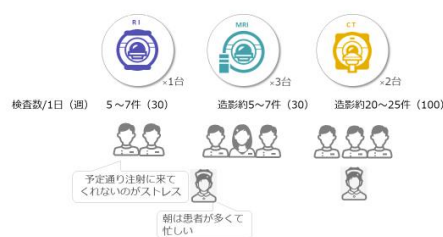
看護師不足・過重労働のために静脈路確保に対応しきれず、検査が頻繁に遅延し支障をきたした CT, MRI, RI, の業務改善と看護業務低減を図るために診療放射線技師による静脈路確保を検討した。

【方法】

現在の状況を把握するために静脈路確保するモダリティCT, MRI, RIの3種類を、各モダリティ別に稼働台数・検査数・技師数・看護師の配置数を調べることにした。

看護師数はCT1人とRIとMRIは必要に応じて1人出向く運用であった。

静脈確保を行うモダリティ



どのモダリティから始めるかは副作用の多

どのモダリティから開始するか

- ・CT
副作用が多い ダイナミック造影がある
(針が太い20G)
- ・MRI
副作用が少ない ダイナミック造影がある
(22Gの針)
- ・RI
副作用が少ない 比較的細い針を使用
(24Gの針)



さや(薬物投与ができない)・針(20G~24G)の大きさなどを検討し、RIから始めることにした。

1) 病院への対応として静脈路確保の許可申請をおこない、院長の許可をもらう。次に看護

病院への対応

- ・病院長へのルート確保許可申請
- ・看護部長との協議
指導看護師の選定
- ・医療安全への静脈確保実施報告



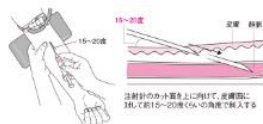
部長と協議をおこない穿刺の指導看護師の選定してもらう。同時に医療安全の承諾も得る。

2) 技師への対応として、告示研修の受講を推奨し現在 17 名終了している。同時に静脈路確

保についての不安を調査し検討した。

技師のルート確保への不安

- ・放射線技師は針を刺したことがない
- ・告示研修では練習が足りない
- ・もし何かあったら？



安全対策として静脈路確保のチェックシートを作成し、RI 担当技師を中心に練習を行う事にした。

まずは静脈注射練習用ファントムにて繰り返し復練習し、次に看護師の指導の下実際の患者さんに対して OJT を実施し経験を積み、最後には卒業検定をもらう予定である。

技師への対応

- ・告示研修を推奨 修了者 現在17人
- ・看護師協力のもとOJTを行う
- ・RI担当者を優先的に指導
- ・安全対策(静脈確保のためのチェックシート)
- ・静脈確保認定(お墨付き)



【結果】

静脈注射用練習ファントムで反復練習の後12月から看護部の協力のもとOJTを実施、臨床研修を行っている。現在担当技師は穿刺数20例以上となり、難しい症例以外はほとんど穿刺できている。来年度からのRIでの静脈路確保は間に合いそうである。

【これからの目標】

4月1日からRIの静脈路確保と共にMRIの静脈路確保の練習、来年4月からのRIとMRIの静脈路確保と同時に放射線技師の増員を目標にしている。

これからの目標

- ・4月1日からRIのルート確保
- ・順次MRIのルート確保練習
- ・再来年度からRI・MRIのルート確保
- ・放射線技師の増員



【考察】

今後、多職種においても業務拡大は継続されるであろうと予想される。

それに伴い新たな業務を積極的に受け入れ、診療放射線技師の医療における社会貢献を更に拡大することを目指す。そのためには、安全の確保は重要であり、告示研修のみならず、現場でのOJT・リスク分析・マニュアル改定は重要な事項と思われる。

【参考文献】

- 1.JART 『告示研修特別サイト』